

外来種ってなんだろう？

生きものを観察していると、もともと小平市にはいなかった外来種を見つけることがあります。外来種とは、人によって他の地域から運び込まれた生きもののことです。外来種が入ってくると、元からいた生きものが食べられたり、すみかを奪われたりしてしまいます。また農作物に被害を与えるなど、私たちの暮らしに思わぬ影響を与えることがあります。

しかし外来種には罪はありません。ペットが放されたり、荷物にまぎれて運ばれたりして、人に連れてこられた生きものです。ペットは最後まで責任を持って飼う、花壇の土を雑木林に捨てない、など、これ以上外来種が増えないようにするためにはどうしたらいいか、みんなで考えていきましょう。

※ここで紹介した6種類はすべて小平市に生息する外来種です。

特 特定外来生物：生態系に与える影響が大きいことから「外来生物法」により飼育や移動などが禁止されている外来種



アメリカオニアザミ (花: 7~10月)



アカボシゴマダラ



マダラロリカリヤ



アライグマ



ミシシッピアカミミガメ



アメリカザリガニ

行ってみよう！ こだいらのみどり

・コゲラの森 (小平市鈴木町一丁目)

小平市の南東部の鈴木小学校近くにある小さな雑木林です。大きくなりすぎた木を切ったことで、若い木々が育ち、明るい雑木林となりました。スミレの仲間など、もともと林にあった植物がよみがえり、昆虫類や野鳥も増えています。



・野火止の雑木林

野火止用水沿いには、クヌギやコナラが中心の雑木林が点在し、昔ながらの武蔵野の面影が見られます。「市の鳥」として小平市民に親しまれているコゲラや、カブトムシ、クワガタムシなど、かつて小平市内に広く生息していた生きものたちに親しむことができます。



・玉川上水

江戸のまちに水を供給するために1600年代に掘られた水路です。開設当時は約43kmもの素掘りの水みちで、現在は羽村取水口から四谷大木戸までの約30km(開渠区間)が国の史跡に指定されています。渡り鳥をはじめとする生きもの重要な移動経路になっており、武蔵野の生きものたちの貴重な生息環境です。



・野火止用水

水の少ない武蔵野台地では、玉川上水から多くの用水が引かれました。最初に引かれたのが、埼玉県まで延びる野火止用水です。トンボやカエルなど水と陸を行き来する動物や、湿った場所が好きな植物などが見られ、市内で最も生きものが豊かな場所のひとつです。



■ 小平市いきいき協働事業
■ 制作・発行：小平市環境部 環境政策課 水と緑と公園課
特定非営利活動法人 NPO birth

こだいらの 生きものを 探しにいこう！

～雑木林・用水～

こだいらの自然と生物多様性

小平市は武蔵野台地にあり、もとは水が少ない場所でした。江戸時代に玉川上水が掘られると、そこからアミの目のように用水が引かれました。用水のまわりには畑や雑木林がつけられ、その恵みを受けて、人々が暮らせるようになりました。水と緑のつながりがあることが、小平市の自然を豊かにしています。市内の雑木林や用水には数多くの生きものが暮らしています。生きものどうしは複雑に関係し合って生きており、種類が多ければ多いほど、自然は豊かになっていきます。このことを生物多様性と言います。食べものやエネルギーなど自然の恵みを受けて生活している私たち人間も、生きものたちの輪の一員です。



雑木林の植物



ホタルブクロ (花：5～7月)
明るい草地に生える。ちょうちんのよ
うな花の形から名前がついた。



キンラン (花：4～5月)
明るい雑木林に生え、どんぐりの木の
根にすむ菌類と共生している。



タツボスミレ (花：3～5月)
アリに種が運ばれることが多く、アリ
の巣の近くでよく見つかる。



ムラサキシキブ (実：10～11月)
紫色の実の清楚な美しさを、平安美女
の「紫式部」に例えた。



クヌギ (実：9～11月)
雑木林で最もよく見られる樹木。丸く
大きなどんぐりは、2年かけて育つ。



コナラ (実：9～11月)
雑木林の代表種。新芽は寒さから身
を守るため、銀色の毛で覆われる。



ウグイスカグラ (花：2～4月)
ウグイスのさえずる頃に花をつけるこ
とから、名前がついた。



エゴノキ (花：5～6月)
若い実にはえくみがあり、白く泡立つ。
石けんの代用として使われていた。

雑木林の生きもの



シジュウカラ
胸にあるネクタイのような黒い模様が
目立つ。



ニホンカナヘビ
雑木林や畑などにすみ、石の上などで
日向ぼっこをすることが多い。



ヤマタマムシ
宝石のような翅（はね）を輝かせ、エ
ノキなどの枝先を飛び回る。



コゲラ
小平市の鳥。キツツキの仲間、樹木
の枯れ枝をつつき、小動物を食べる。



ホンドタヌキ
雑木林や畑などで見られる。日本では
古くから親しまれてきた野生動物。



カブトムシ
昆虫の王様。幼虫は落葉堆肥などで育
ち、成虫は樹液に集まる。



メジロ
目の周りに白い羽毛のふちどりがあり、
花のみつを好む。



ルリタテハ
翅（はね）のウラは木の皮に似て、開
くとり色のスジが目立つ。



ゴマダラチョウ
黒字に白色の斑点が散りばめられる、
大型の美しいチョウ。

用水の生きもの



アズマヒキガエル
普段は雑木林などにすみ、産卵の時
に水辺に集まる。



ハグロトンボ (ヤゴ)
水草の多い場所を好み、細長い体で沈
んだ枝などに化ける。



ドジョウ
流れの緩やかな水路や水田を好む。
泥の中によくもぐる。



ハグロトンボ (成虫)
黒っぽい翅（はね）を持ち、雑木林な
どでチョウのようにひらひらと飛ぶ。



カマツカ
砂底の河川などにすみ、下向きでエサ
を掘りだして食べる。



ナベバタムシ
渓流など、流れがあり、水の澄んだ場
所にすみ、水底で小動物を食べる。

草原の植物・生きもの



カントウタンポポ (花：3～5月)
春のみ花をつける、日本古来の背の
高いタンポポ。



ハクセキレイ
芝生や河原など、開けた場所を歩き回
り、小さな虫などを食べる。



ホトケノザ (花：3～6月)
葉の形が仏様の台座（蓮座）のよう
に見えることが、名前の由来。



アゲハチョウ (ナミアゲハ)
明るい場所を花から花へ素早く飛び回
り、ミカンの仲間に産卵する。



オンパッタ
大きなメスの上に、小さなオスがの
り、小さなオスが見られる。



オオカマキリ
背丈の高い草地で見られる、日本最大
のカマキリ。

希 国または東京都の絶滅のおそれのある生物をまとめた「レッドリスト」に記載されている生きもの